

令和4度第1回長浜市総合教育会議議事要点録

I 日 時 令和4年12月22日(木曜日)15時15分～17時15分

II 場 所 長浜市役所3階 特別会議室

III 出席者 【構成員】

浅見 宣義 市長	織田 恭淳 教育長	
前田 康一 委員	廣田 光前 委員	宮本 麻里 委員
中村 亜紀 委員	松宮 誠也 委員	

【話題提供者】

滋賀県教育委員会事務局高校教育課 魅力ある高校づくり推進室長 小嶋栄子氏

滋賀県立伊香高等学校 教頭 大森 文子氏

滋賀県立伊香高等学校地域連携コーディネーター 中山 郁英氏

【事 務 局】 内藤教育部長、堤教育委員会事務局次長、東野教育委員会事務局次長、服部教育総務課長、中北教育改革推進室長、筧教育指導課長、成田教育指導課長代理、前畠教育総務課長代理、川瀬教育総務課主幹、福永総務部長、横田総務部政策監、森総務部次長、柴田政策デザイン課長、山崎政策デザイン課係長、小野政策デザイン課副参事、池野政策デザイン課主査

IV 内 容

1 開会

2 市長挨拶

市 長 第1回長浜市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、日ごろから、子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

本日の意見交換のテーマは、「県立高校の魅力化と地域連携について」です。

長浜市では、特に若者の人口減少が進み、県立高校の定員割れが続いているというゆゆしき事態がある中で、学校の魅力化をどう図っていくかについて、県の教育委員会だけでなく、市としても考えていかねばならないと思っています。

また、今年度策定した「長浜市総合計画第3期基本計画」の重点プロジェクトでは、『長浜に暮らす若者が、現在も、将来も魅力を感じられるまちを創る』ことを目標に掲げています。

そのようなまちを創るためには、中学校卒業までだけでなく、高校生も長浜に関心を持ち、魅力を感じてもらうことが非常に重要です。

また、市内の高校で生涯の友達を創ることができ、一緒に長浜のことを考えられるという環境が長浜に必要であると考えています。

また現在、長浜バイオ大学を始めとした、地域の大学との連携のあり方を検討しておりますが、高校と地域との連携も必要不可欠です。

本日は、地域の高校の現状をふまえて、地域の高校の魅力をどのように高めていけるか等について議論することで、長浜の子どもたちを育む環境について、より良い方向性を見出すことができることを心から期待してご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願い申し上げます。

3 話題提供者紹介

4 意見交換

テーマ:「県立高校の魅力化と地域連携について」

(1)意見交換1

行政説明 ・市内県立高校の現状等(趣旨説明)
・市内中学生の進路状況

委員 自身の子どもに、何を重視して高校を選択しているかを聞いたところ、第1に自分の学力に合っているか、第2には無理なく通える範囲内かどうかで、塾では偏差値の高いところを勧められるということであった。

そのため、資料 P15 の「高校を選ぶとき、主に何を重視しますか」の結果になることも納得がいく。

また、将来明確にやりたいことが決まっている子はそれができる高校に行くが、明確に決まっていない子は、通学ができる範囲で、学力が高いところを目指そうとするのではないか。

委員 全県一区でどこにも通えるとはいっても、実際は通学の関係で行ける高校が絞られてしまうため、湖北地域にその選択肢が増えるといいという声を聞く。

現実的に通学できる高校が限られているからこそ、1校1校が魅力的なものになれば良いと思うし、それは学力に限らず、「ここに行けばこんな大人になれる、こんなことができる」といった魅力があると良い。

また、中学3年生の夏のオープンハイスクールの時期から進路を具体的に考える子が多いと思うが、その時期から学校を見に行こうとしても見に行ける校数に限りがあるため、それより前の時期から考えられるきっかけがあると良い。

例えば中学1年生の子は、市内の高校の特色を知らないと思うので、中学生になったばかりの時期に、市内にはこんな高校があつてどんなことをしているかといった情報発信ができると良いのではないか。

その情報発信は、将来高校生になる子だけでなく、地域の人にも必要である。

高校がどのような思いで何に取り組んでいるかを外に発信することで、地域側が高校とどのように関わっていけばいいかがわかり、地域との繋がりが育ちやすくなる。

っかけを増やすことになるのではないか。

各校の魅力をどんどん作り、学生だけでなく保護者や地域にも発信していくことが大切であると感じる。

事務局 進学先を選ぶ際に、地域の学校に通学してほしいか、やりたいことがあれば市外の高校に通学するのか、「地域」と「やりたいこと」のどちらを重視するか。

委員 「ここでこれをしたい、この職業に就きたい」という思いをもって高校に進学する子は少数で、大半が通学しやすく自身の学力にあうところが自動的に選択されていくのではないか。

最近、虎姫高校のレベルの低下が見られるので、南の進学校が選ばれる傾向にあると感じる。

委員 高校生という時期は、まだまだ地域への愛着が芽生えるタイミングであると思う。自身のことを思い返してみても、高校時代がとても楽しく、ここに将来も住みたいと思っていた。

親の勝手な意見ではあるが、子どもが大学や社会人の時に外に出て成長していくことは応援するが、高校生の間はできれば地元にてほしいと思ってしまう。近くにまだいてほしいし、その間に家族の形や長浜を好きになる気持ちを親として作ってあげたい。できたら近くで魅力ある高校に行ってほしい。

委員 自身の子どもの場合は、高校の進学先を決めるときに何になりたいかが具体的に決まっていなかったため、将来の選択肢が広い普通科に進学した。例えば、身近な人が通っている高校は、馴染みやすく、将来のイメージも沸くため、選択肢になる場合もあると思う。また、勉強だけでなく、部活が活発かどうか魅力の1つになるのではないか。

私の高校時代を振り返ると、今も付き合いがある生涯の友達もでき、楽しく過ごしていた半面、通学に1時間以上かかっていたことが大変だったと感じる。

どのような理由でも、子どもたちの「憧れ」という気持ちが大切である。

委員 高校の魅力化も大事であるが、まずは地域の力を高めることが重要である。滋賀県全体よりも湖北地域の人口減少が進んでいるが、進学で市外に出た人が帰ってこない理由の1つに、就職先がないことがあると思う。

長浜は「森・川・里・湖」だけでなく、空や宇宙まで踏まえた魅力があり、この地域のすばらしさや美しさを、幼少期から地域で感じることで愛着が生まれる。

地域の魅力を高め、底上げするには、行政・企業・個人がワンチームで行うことが重要である。例えば、企業が学校に自社のPRをすることで長浜で働くことがイメージできたり、行政や地域が、子どもが地域に関わる受け皿を創ることで地域への愛着を高めることができる。

このように、行政・企業・個人の連携が、持続可能な地域を創るために必要不可欠である。

委員 高校の魅力を高めることも必要であるが、子どもたち自身が「自分はここに行きたい」「〇〇になるにはここ」と、自分で選択できる力を身に着けることが重要であり、そのためには、キャリア教育を小中一貫でしっかり行うべきである。

資料のアンケート結果を見ると、大人が魅力ある高校を創っても、子どもたちに選ばれるのか、子どもの実態からみた選ばれる高校とずれがあるのではないかと感じる。

そのずれを埋めるためには、キャリア教育の推進と、地域と連携した教育活動の推進が重要である。そして、根本には長浜を愛する気持ち、地域の愛着が重要であるため、そのために地域や企業が連携しながらその気持ちを育ていかなければならない。

まずは子どもたち自身が選択できる力の向上、その次に地域や企業と連携した教育を推進しながら、将来を担う子どもたちを小中高一貫で進めていくことが大事だと思う。

(2)意見交換2

行政説明 ・(仮称)滋賀の県立高等学校魅力化プランの概要説明
・高校魅力化検討の事例紹介

教育長 地域一体となって、高校生も含んだ「地域の子ども」をどのように育てていくか、どのような人材を創っていくかを、市や市教委、県教委も連携して考えていかなければならない。

現在、長浜市は「真の学力」の育成として「生きる力」を育む教育を推進しているが、現状として子どもの家庭環境が2つに分かれており、その格差が大きい。それは、非常に高いレベルで教育をしようという家庭と、経済力が低く、子どもの教育にあまり関心がない家庭であり、長浜では後者が多いのが現状である。その長浜市の現状を踏まえたうえで、どのように地域の子どもを育てていくのかを考えなければいけないと、以前、文科省の人からも指摘があった。

そのような状況の中で、経済力が低い子や、学力が低い子は進学できる高校の選択肢も少ない。そうすると、家から自転車で通える場所の学校をどうしていくかが課題であり、市や市教委、県教委が連携して、長浜の子どもが高校を卒業する段階まで見据えて取り組まねばならないと感じている。

委員 私も、小中高一貫した教育を地域や企業が参画し、一体となって考えていかなければならないと考えている。

特に、地域産業の振興を考えた場合、地元の高校が地域の人材を育てることができするため、より地域と産業との連携を取らねばならない。

それには探究的な学習、小中学校でいえば総合学習が重要である。

高校は、今年度の新学習指導要領で、探究的な学びを積極的に導入され、どのような生徒を育てていくかといった方向性が示されたと感じている。

地域の課題を明確にしながら各分野において自身で考えて行動できる生徒を育てていくには、小中学校からの教育が重要だが、長浜市は総合的な学習が弱い印象である。

例えば、びわ南小学校ではアユについての学習があり、以前は多く生息していたアユが少なくなっていることを題材に、地域と連携して考え、プレゼンを行ったり、ポスターを作成するといった発信をされている。そのように、地域振興に参画し、地域に根差した取り組みが必要である。

地域の中で子どもたちをどう育てていくかを、小中高が単体ではなく、一体となって進めていくことが、今後の進むべき道であると思う。

委員 長浜には、過去から現在まで、多方面に渡って活躍されている方や、地域ぐるみで子どものスポーツ指導に力を入れているところなど、魅力が沢山ある。

子どもたちに、長浜にはこのような魅力や優れた人材がいるということを、発信していくことが必要である。

例えば、地域で活躍されている人を子どもたちに紹介することで、より地域が好きになり、自身も長浜で活躍したい、長浜で活躍できるのではないかな。

委員 高校に通っている子どもや卒業された子どもを持つ保護者に話を聞くと、高校生活の中で、地域のボランティアや、地域交流の場、職場見学や職場体験が本当によかったという声があった。

そのため、滋賀の県立高等学校魅力化プランの資料の中にある、「地域連携重点」「産業教育重点」の部分は、保護者のニーズとも合っていると思う。

普通に生活しているだけでは、自分の住んでる以外の場所に行ったり、地域の人と喋ったり体験する機会は少ない。そのため、その機会を創ることで長浜を知ることができ、地域を好きになるきっかけになると思う。

そして、単に話を聞くだけではなく、地域の人やそこで働く人と関わりながら実践的に取り組むことが大事である。また、できれば長浜が良いが、滋賀県でどのような企業があって、どんな人が働いているのかということがわかると、自分の将来もイメージしやすく、「この企業で働きたい、ここで働いている人がかっこよかったから自分もそうになりたい」といった小さな憧れが沢山生まれると思うので、その機会を大人が多く提供できると、市内企業の人材不足の解消にもつながるのではないかな。

委員 雲南市の紹介をいただいたが、コンソーシアムを設置したことによって、部活の協働などの具体的成果はあるか。

話題提供者 部活の話については、今年度から検討を進められるということだが、おそらく1番の成果としては、「雲南式探究プログラム」という、しっかりしたワークシートが市内高校共通で用意され、各校での取組や探究的な学びの流れ、地域の方へのインタビュー内容等が取りまとめられている。そのような内容を各校で準備や

実行しようとしても難しい部分があるので、そこを市がバックアップして、協働で実施されている部分が成果であると思う。

もう 1 つは、「雲南スペシャルチャレンジ事業」という、中学生から若手の社会人の方まで、自分のやりたいことを提案して、審査に通ると実行に向けた補助がもらえるといったものがある。

そのような取組を高校の探究授業等と組み合わせて実施することで、高校生が地域に出て、自分たちで考えたことを実践してみるといった動きが生まれているのが良いと思った。

委員 市として、湖北の高校に通う生徒数を増やすことなのか、地域社会で活躍できる人材育成に重点を置いていくのか、どちらを目指しているのか。

事務局 地域社会で活躍できる人材育成が根幹にあり、そのために、通学者を増やすことも必要であると考えている。

委員 地域社会で活躍できる人材育成に重点を置くのであれば、各高校の学習目標や方針をもっと尖ったものにすることがあると思う。

資料 P22に、各高校が5つの重点項目のどこに該当するかといった表があるが、例えば1つの高校で5つの内4つに該当しても、4つの項目全てに取り組むということは実際難しいのではないか。この表を少しでも埋めるのではなく、もっと空白の部分があってもいいと思う。

虎姫高校の現状をお伝えすると、これまでにスーパーサイエンスハイスクールの指定や、国際バカロレアの認定を受けていたが、スーパーサイエンスハイスクールは昨年度で終了し、大学や企業との協同的な授業不足という理由から更新ができなかった。バカロレアは現在3年目であるが、毎年定員が 20 名のところ、現在は3年生が 6 名、2 年生が 15 名、1 年生が 4 名という状況である。

つまり、各校で取り組まないといけないことが多すぎて、特徴が出せないのではないかと感じている。

また、人事の話になるが、校長先生など、音頭を取る人が2～3年で交代されてしまうため、やっと道筋ができたところでリセットされてしまう。例えば、産業教育重点に注力する場合に、前任者は地域で顔が広く、様々な企業と協力していたが、新任者は地域になじみが無く、得意分野でもないとなると、せっかく重点的にやってきたものが停滞してしまう。

そのため、音頭をとる、現場を動かす責任者は、長期的なスパンで在席できる環境にしないと、学校を変えること自体が難しいと思う。少し具体的にお話すると、京都に洛南高校があるが、理事長が変わったことで、校則を厳しくしたりと改革を行った結果、進学校になった経緯がある。このような改革を公立でもできる環境を創っていかないと中々変わらないと思う。

また、現場の先生も自身でできることややりたいことなどの案があると思うの

で、誰が責任を持って、それを長期的に実行していくのかという体制を変えていかないと、教育改革の実現は難しいと思うので、そこを何とかしていきたい。

市長 公立でも、特徴的な探究の取組みを行った結果、偏差値が上がり進学校になったケースがあるが、それを進めるためには、県に「特区」的なことを考えてもらう必要があると考えている。

実際、県内で同じことをやっても、湖北はどうしても南に負けてしまう。長浜で人材を育てて、将来的に人が帰ってくるには、何か特別に教育できる権限や体制が欲しい。例えば、付属校の誘致や、進学に特化したクラスの設置、県外からの通学者を増やせる仕組みや、私立高校と協力できる仕組みがあっても良い。

そのため、県には、「湖北が特別に活性化できる権限」を、北部振興策の1つとして方向性を出していただきたい。

教 育 長 皆さん、本日はありがとうございました。

委員からも意見のあった、「課題に自分事として向き合える力」の育成が重要であると感じた。例えば、高校の魅力化について、学生にはアンケート調査のみで終わっているが、具体的に高校存続に向けてどうしていくかを考えさせてもいいのではないかと。先日、脱炭素のシンポジウムで、大勢の大人に対して中学生がプレゼンをしていたが、素晴らしい発表であった。実際に学生にできることは多くあり、大人が今後についてどうしようかと考えているだけでは良い意見は出ないこともあると思うので、もっと子どもの力を信じて、学生自身に、自分の地域、自分の母校をどうするかを考えてもらおうと柔軟で斬新な発想が生まれるのではないかと。

本来、県立高校は県の仕事という部分はあるかもしれないが、今回の総合教育会議のように、市でも議論するところが、長浜の良さである。子どもたちに求める、主体的に、自分事として課題解決に取り組む力や姿勢を、まずは私たち大人が示すためにも取り組んでいる。県の方にもその意図を汲んでいただいて、より良い高校づくり、より良い人材育成をしていくために、今後ともよろしくお願いする。本日は、ありがとうございました。

5 その他

事務局 今年度の総合教育会議は2回の開催を予定しており、次回は令和5年1月31日(火)13時30分からを予定している。

6 閉会

以上